



# サンビオティック農業で大豊作！

## 水稻 栽培基準



時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
10月 ～2月	秋処理 (ワラ残渣分解)	鶏糞など 菌力アップ	200kg 300倍希釈	全面散布	ワラ残渣を分解するため、収穫後早めに、鶏糞、菌力アップを全面散布し、耕起する。1か月後再度耕すと、さらに良い。忙しい場合は、2月までに行う。
5月	種子予措 (温湯消毒の場合)	菌力アップ 純正木酢液	200倍希釈 1000倍希釈	温湯に混入し、 浸漬	60℃に10分、または58℃に15分、種子浸漬。その後速やかに冷却。雑菌、センチウ等を駆除しながら、善玉菌を付着させ、健苗育生を目指す。純正木酢液は、発芽促進に。
	播種	菌力アップ	500倍希釈	散布	発芽促進と初期発根のため。
	元肥	<b>Point</b> 有機百倍 鈴成	2～3袋 5～10袋	土壌混和	田植えの1か月～2週間前に元肥を施用する。有機百倍はマッスルモンスターに置き換えてもよい。マッスルモンスターの場合は、田植え前1か月施肥を厳守する。鈴成の使用は、有効分けつを促進し、甘味・粘りが出て食味の向上に効果的なので、高付加価値販売の場合はおすすめ。また葉が硬く鋭くなり、病害虫対策としてもおすすめ。
6月	発芽育苗	菌力アップ	500倍希釈	散布	発芽促進と初期発根のため、1週間おきに散布。コーソゴールド500倍を混合するとなお良い。
	代掻き 田植え	<b>Point</b> 菌力アップ	10リットル	水口から流し込み、4～5日以上止水する	未熟有機物(ワラ残渣など)の分解、ガスわき、アオミドロ発生を軽減し、稲の活着促進、初期生育促進を行います。また発根が促進され、倒伏リスクが軽減します。除草剤と菌力アップは近隣散布に注意する。除草剤散布前7日・散布後14日～20日上間隔をあけて施用する。
7月	有効分けつ期	コーソゴールド	500倍希釈	葉面散布、 または流し込み	分けつを促進するため、コーソゴールドを施用。葉面散布が面倒な場合は、水口から3リットルを流し込む。
	中干し	本気Ca(マジカル)	1000倍希釈	葉面散布	いもち病、紋枯れ病、ウンカ、カメムシ等の防除時期であるが、無農薬栽培の場合や、病害虫軽減を目指す場合は、本気Ca(マジカル)1000倍、または純正木酢液500倍を葉面散布する。
8月	幼穂形成期	コーソゴールド 菌力アップ	3リットル 10リットル	葉面散布、 または流し込み	幼穂の充実と根の回復、肥料効果向上のため、中干し終了時、コーソゴールドと菌力アップの流し込み。コーソゴールド葉面散布の場合は500倍希釈(農薬と混合可)。土壌や発根状態が良い場合は、菌力アップを省略可。ケイ酸カリ、ケイ酸カルシウムや、Mg入りのスラグ肥料などを1～2袋程度施用すると病害虫対策と品質向上に良い。
	穂肥 減数分裂期	有機百倍	1～2袋	全面散布	穂肥は、生育、葉色を判断しながら、2～3回に分けて施用する。穂肥として、特濃糖力アップ(10-0-1)10kg/回の流し込み施肥も可能です。
	穂揃期	本格にがり 本気Ca(マジカル)	1000倍希釈 1000倍希釈	葉面散布、 または流し込み	食味の向上と病害虫軽減のため施用する。でんぷんが蓄積し、ツヤとうま味のあるコメを目指す。流し込みの場合は、各2リットル。
9月	登熟期				できれば登熟後期まで、3～4回施用する。特に、日照不足の天候時が続く場合には、ぜひ施用する。
10月	刈取				

※地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。

※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。

※品種、生育によって施肥量を加減してください。